
梨とコタツとバカッブル

聖闘士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

梨とコタツとバカップル

【Nコード】

N2303J

【作者名】

聖闘士

【あらすじ】

日本人の正しい正月のあり方（？）

とあるアパートの一室、向かい合ってコタツに入った二人の男女が口論をしていた。

「なんで、あたしがお茶くみに行かなきゃならないのよっ！あんたが行けばいいでしょっ！」

「正月早々、いきなり俺の家に押し掛けて来るなり、コタツに入っ
て『寒いから、温かいお茶が飲みたい』って言ったのはお前だろう
がっ！しかも、俺にはお茶っぱがどこにあるのか分かんねえんだよ
っ！」

「ここはあんたんちなんだから、自分の家にあるものぐらいちゃん
と確認しておきなさいよっ！」

「お前がこないだ雑にしまったせいで、分かんなくなっただんどう
がっ！」

「あたしのしまった場所ぐらい分かりなさいよっ！」

「無茶言っなっ！そんなもの分かるわけないだろっ！」

「そこは愛の力でっ！！！」

「……無理だっ！！！」

——その後も、ケンカなのかじゃあいなのか分からない言い合いは続いたが、結局、男の方が台所へお茶を煎れに行くことになった。

「……理不尽だ」

「さすがっ ♪愛してるわよっ ♪私の愛しの彼氏様っ ♪」

「……おかしいな……？ちつとも嬉しさがわいてこないぞ」

「あ、ついでにお茶請けもよろしくっ ♪」

「……」

男は、何を言っても無駄だと感じたのか、無言のまま女の方を一瞥^{いちべつ}すると、これ見よがしにため息をつきながら、台所へと姿を消した。

—— 30分後、湯のみに入ったお茶二つと、キッチンと皮がむかれた梨が一皿、コタツに運ばれてきた。

「何で梨なのよっ！コタツと言ったらミカンでしょうっ！」

男は口元を引きつらせつつ、こう答えた。

「—— 文句があるんなら、自分で買ってこいっ！俺はミカンよりも梨の方が好きなんだよっ！……！」

「—— あら！この梨意外とおいしいわね」

「……結局、食うのかよ……」

男は文句をたれ流しつつも、自分は梨にはほとんど手を着けずお茶も一杯しか飲まずに、女が梨を食べるのを黙って見守っていた。

そして皿に入っていた梨が全て無くなり、急須も空になると、女は

少しずつソワソワし始めた。

男はその事に気づくと、ニヤリと不敵な笑みを浮かべた。

「・・・?・・・ツツツ!!」

男の表情に女は一瞬いぶかしげな表情を浮かべたが、次の瞬間悔しそうな表情に変わると、男を睨みつけた。

「・・・あんたまさか・・・」

「ああ、お前の想像通りだろうさ」

男は勝ち誇った笑みを浮かべて、女に話し始めた。

「——お前も知っているとおり、梨は水分を多く含んでいる果物だ。しかも俺が一杯飲む間に、お前は何杯もお茶をおかわりした。つまり・・・」

お前は今、トイレに行きたくて仕方がないはずだ」

女は唇をギュッと噛みしめて屈辱に耐えているが、その眼だけは、今もなお男に向かって闘志をたぎらせていた。

——そんな女の様子を目にした男は、さらに得意気になって続ける。

「当然トイレにたつ場合は、ここにある二人分の湯のみと皿を流しで洗ってもらう。」

——ああそうだ、ついでにポストから年賀状も取ってきて貰おうか。」

「!ッ・・・何ですって・・・」

女は愕然^{がくぜん}とした面持ちでつぶやいた。

「おいおい、このぐらいのペナルティは当然じゃないか——コタツから出るというのは、そういう事だろう?」

「・・・ええ、その通りね・・・」

次の瞬間、女はキッと男を睨みつけると

「——でも、ムザムザやられるつもりはないわっ！……！」

そう言って、コタツを自分の方へ思い切り引っ張った。

『これであいつをコタツから出してしまえば私の勝ちっ』

女は逆転勝利を確信した。

——しかし敵もさるもの、男の方もコタツを両手でしっかりと押さえて、コタツが動かないようにしていた。

「くっ……離しなさいよっ！」

「そうはいかないっ！俺だって負けるわけにはいかないんだっ！……！」

——ここは、我慢比べといこうじゃないか」

「……！……！……！……！……！……！……！……！」

——その後7分43秒に渡って続けられた死闘は、結局男の勝利で幕を閉じた。

我慢出来ずにトイレへと向かう女の後ろ姿を眺めながら、男は二週間ぶりの勝利の味に浸っていた。

そこへ——

「そうそう・・・私のトイレ長くなりそうだから、洗い物をお願いねっ」
「ついでに年賀状もよろしくっ」

「・・・なにいつ！」

——現実、時として非情である。

「まったく・・・正月早々、ムダな体力を使っちゃったわ」

「・・・ならば、正月早々やるせなくなった俺の気持ちは、どうしてくれる」

「そんなの、あんたが負けるから悪いんでしょう？」

「俺は負けた訳じゃないっ！」

「はいはい——試合に勝って、勝負に負けたって事でしよう・・・みつともない」

「聞こえているぞっ！・・・しかし、今年一年もこんな調子だとすると、俺の身が持たん・・・」

「しょうがないわねえ。ほらほら、せっかく私が梨を剥いてきてあげたんだから、食べなさいよ。はい、あゝん」

そう言われた男は素直に口を開け、女に食べさせてもらった梨をじつくり味わって食べ終えた。

「——やはり、この梨は格別だな。」

「あたしが剥いた梨だものねっ」

「・・・今回はそういうことにしておいてやるっ」

「なんか引つかかる言い方よね、素直に認めなさ・・・そう言えば、新年なのに、下らない掛け合いで大切なコトをすっかり忘れてたわ」

「原因はほとんどお前だろうがっ！」

「いちいち細かい男よね、あんたも。今は叫ぶより先に、やることがあるでしょう？」

「・・・非常に不本意だが同意しよう、続きはこれが終わった後だ」

「じゃあいくわよ、せいの」

「「あけましておめでとございます。今年も一年、よろしく願います」」

（後書き）

「小説家になろう」の皆様、本年もよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2303j/>

梨とコタツとバカップル

2010年10月8日13時02分発行